

令和４年度第４回地方独立行政法人機構評価委員会 議事要旨

日 時 令和５年２月７日(火) 16時00分から17時15分

場 所 加古川中央市民病院 ３階 会議室

出席者 委 員 ５名
加古川市民病院機構 13名
事務局 ６名

会議次第 １．開会

２．議題
（１）令和４年度業務実績報告（上期）について
（２）その他

３．閉会

【配付資料】

資料１：2022年度 年度計画指標 実績報告（2022年11月末）

資料２：2022年度 経営状況報告（4-12月）

1. 開会	開会の宣言 ＜委員長あいさつ＞
2. 議題	(1) 令和4年度業務実績報告(上期)について 令和4年度11月末までの業務実績及び経営状況及び今年度の見込みについて、資料1・2をもとに、加古川市民病院機構(以下、「機構」という。)より説明があった。 資料1：年度計画指標 実績報告について ・救急車受入件数は発熱を伴う患者の要請が増えたことなどにより、前年度よりも多い件数となっている。これに伴い、救急車受入要請に対する不応率も増加し、目標達成は難しい状況である。 ・紹介率、逆紹介率はコロナ前よりも低い割合となっているが、発熱外来の増加による影響である。 ・がんセンターボード開催数やがん相談件数、がんリハビリテーション実施件数などががん医療の充実に関する活動指標が増加した。 ・循環器疾患にかかる指標について、見込件数が目標未達のものがあるが、循環器疾患は冬季に多い傾向があるため、今後の増加が予想される。 ・センター診療機能の更なる充実では、令和5年1月に新たに呼吸器センターを設置した。 ・日帰り手術件数の増加は眼科での手術件数増加が主な要因である。 ・医師数の指標について、医師数は順調に増加している。 資料2：経営状況報告について ・新型コロナウイルス感染症のピーク(7、8、12月)のタイミングで医業収益が増加している。 ・外来患者数は、ほとんどの月で計画の1,450人/日を上回っているが、入院患者数は計画の540人/日にわずかに満たない状況である。 ・入院単価は計画の88,000円を上回り、9万円台を推移している。 ・医業費用について、材料費や光熱水費の高騰による影響がみられる。前年度と比較して、医業収益の増よりも、医業費用の増が上回っており、全体としては前年度よりも総利益が減少している。 (委員) 救急に係る院内放送や救急車の待機などを目にすることも多く、大変な状況の中、医療を提供されているのを感じている。感染症対策を行いながら、救急受入や通常医療の提供を行っており、入院単価が9万円台であるなど、病院の努力が感じられる。 (委員) 高度専門医療項目で目標達成の部分が見られるなど、コロナ禍であっても本業である医療の提供をしっかりとしているのを感じる。人材育成の面では、資格取得者数を着実に増やしており、将来のことを考えてよい運営をしていると感じた。 社会全体に共通する話だが、電気代の高騰が異常な状態となっており、規模が大きいだけに大変だと思う。収支を考えるにあたっては、様々な節電対策について注視するなど、大変だと思うが引き続き頑張っていただきたい。

	(委員) コロナに振り回されつつも、新しく呼吸器センターを設置するなど、きちんと病院としての活動を行っていると感じた。収支の面でもコロナの影響が大きいと思うが、今後は5類に変更されるということもあり、新しいフェーズに向かって舵取りをするのが難しいと思う。コロナに関連する補助金がなくなった場合でも、高度医療が提供できるように今後もうまく経営の舵取りをしていってほしい。光熱費の上昇が異常であるが、コロナと同じようにうまく乗り越えてほしい。 (委員) コロナ禍であっても救急医療や高度専門医療の面などで積極的に活動を行っており、非常に素晴らしいと思う。指標の中で、「仕事にやりがいや誇りを感じると答えた割合」が減少している点が少し気になるが、何か要因はあるのか。 (機構) コロナの影響でやや厳しめの行動制限を強いている事や、帰省しづらい状況など、私生活の制限によりストレスを発散できない環境が影響しているのかもしれない。 (2) その他 現在建設中の増築棟の進捗状況やスケジュール等について、機構より報告があった。
3. 閉会	<副委員長あいさつ> <健康医療部長あいさつ>